

教科・科目	対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
芸術・書道 I	1 年	2	書 I（光村図書）	各種プリント
科目の概要と目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、完成を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。			
授業の進め方	教科書、プリント、書の話などを交えながら、表現と鑑賞をバランスよく取り入れる。 自身の作品や他人の作品の鑑賞にあたっては、表現の意図について発表したり、互いに批評し合ったりする活動を取り入れる。			
評価の観点と方法	評価の観点…①書への関心・意欲・態度 ②書表現の構想と工夫 ③創造的な書表現の技能 ④鑑賞の能力 方法…作品、臨書ノート、創作ノート、鑑賞レポート、授業態度等を総合的に評価する。			
	学期	単元・学習項目	学習内容・到達度目標	
年間 の 授 業 内 容	1 学 期	<b>はじめに</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>書写から書道へ</li> <li>用具・用材を知る</li> </ul> <b>漢字の書の学習</b> [楷書の学習] <ul style="list-style-type: none"> <li>孔子廟堂碑</li> <li>九成宮醴泉銘</li> <li>雁塔聖教序</li> <li>顔氏家廟碑</li> <li>牛橛造像記</li> <li>楷書による創作</li> </ul> <b>篆刻実習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>姓名印の制作</li> </ul> <b>展覧会鑑賞</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書写と書道の共通性と相違を理解し、書の世界を知る。</li> <li>用具・用材の種類や性能を学ぶ。</li> <li>漢字の書体の変遷について学ぶ。</li> <li>古典の意義や拓本について学ぶ。</li> <li>楷書古典の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。</li> <li>各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。</li> <li>楷書の古典をもとに学んだ書風や筆法を生かして生活の中で楽しめる作品作りをする。</li> <li>篆刻における印の名称や種類、使い方、用具・用材について知る。</li> <li>手順を理解し、構想を練り、制作へつなげる。</li> <li>展覧会で多彩な作品を鑑賞し、書にも様々なジャンルがあることを知る。</li> </ul>	
	2 学 期	[行書の学習] <ul style="list-style-type: none"> <li>蘭亭序</li> <li>蜀素帖</li> <li>風信帖</li> <li>行書による創作</li> </ul> <b>仮名の書の学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名、変体仮名、連綿</li> <li>高野切第三種</li> <li>寸松庵色紙・升色紙</li> <li>仮名の書の創作</li> </ul> <b>全日本高等学校書道コンクールへの出品作品完成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の成立過程を理解する。</li> <li>楷書と行書の違いを理解する。</li> <li>行書古典の臨書学習により、行書の特徴を踏まえ用筆法・運筆法を学ぶ。</li> <li>行書の古典をもとに学んだ書風や筆法を生かして生活の中で楽しめる作品作りをする。</li> <li>仮名の成立と変遷、種類について学ぶ。</li> <li>仮名の基本線（直線・曲線・転折）について、それぞれの特徴を理解して書く。</li> <li>それぞれの古筆の用筆や筆順、字形の特徴を理解し、臨書する。</li> <li>平安時代の古筆を参考に、行の長短や高低、行間の広狭、紙面構成などを工夫し作品を制作する。</li> <li>これまで学習した漢字の書、仮名の書の好きな古典を1つ選んで臨書をし、コンクールに出品する。</li> </ul>	
	3 学 期	<b>漢字仮名交じりの書の学習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>心に響く言葉を書く</li> </ul> <b>表具実習</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>書いた作品を表具しパネルに貼る</li> </ul> 「響」展に全員パネル作品を出品	<ul style="list-style-type: none"> <li>創作の準備と手順を知る。</li> <li>自己の意図やねらいを達成するために、漢字や仮名の古典を生かした表現を工夫する。</li> <li>用具・用材と表現の関係を考える。</li> <li>文字と余白の関係を理解し、全体構成を考えた表現を身に付ける。</li> <li>表具の仕方を学び、自分の作品を自分で表具する。</li> <li>制作した作品を鑑賞し、感じたことやわかったことを伝え合う。</li> </ul>	